高蔵寺 どんぐりs

ふれあいだより

NO 136

2023.1.15

ＮＰＯ法人　高蔵寺どんぐりｓ発行（☎090-1566-7767）

東部ほっとステーション、3月で廃止

ハート・ほっと・ルームや住まい相談は別施設で継続へ

２０１１年１１月に開設して以来、地域市民団体の活動拠点となっている「東部ほっとステーション」（サンマルシェ北館）が、3月末で廃止される。ステーションを利用する９団体に対し昨年１１月２５日、春日井市から申し出があった。「高蔵寺どんぐりｓ」は、同所を拠点としていた「どんぐりｓカフェ」などの主要活動は開催施設を移し継続する方針だ。

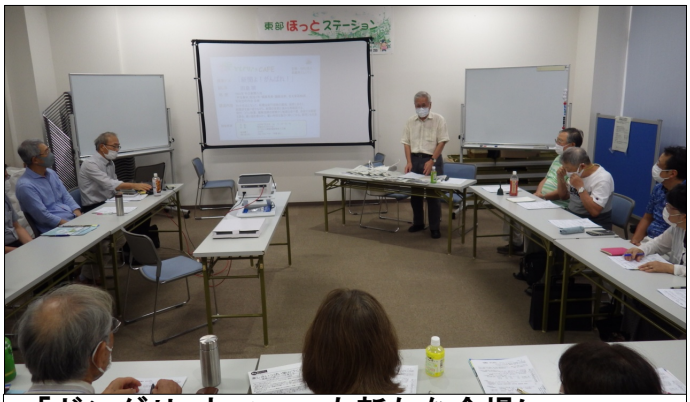
市による廃止理由は、「グルッポふじとう」の開設、東部市民センターの改修によって集会所施設が充実し、ステーションの設置目的が満たされたためとしている。９団体で構成する運営会議では、活動継続への危惧が訴えられた。

ステーションの目的は単に施設不足を補うためだけのものではない。市民団体の支援を通じニュータウン全体の生活や文化の質の向上を目指していた。子育てのお母さん支援、外国人住民の日本語学習、心や暮らしの悩みの語り合い、住まいの困りごと相談、住民同士の交流と学習の場など、各団体が住民に寄り添い活動してきた。

これらの活動は参加費を徴収できず、施設利用料が無料だから成り立つものが多い。一部の活動は断念せざるを得ないという団体も出ている。各団体からは、「行政と市民の協働を促進するという、これまでの方針とそぐわないのではないか」「市民団体との協力関係を見直すのか」などのとの声も出た。

担当のニュータウン創生課は「市民団体の重視、支援の市の方針は変わらない」とし、廃止後は各団体が「グルッポふじとう」などで優先的登録団体（優先予約、料金半額）として活動できるように支援する、と強調した。

「どんぐりｓ」は、ステーションを拠点としていた「どんぐりｓカフェ」「住まい困りごと相談」、「ハート・ほっと・ルーム」の3活動を継続する方向で、新たな活動拠点を探す作業を始めた。　（**明賀　雄二**）



「ドングリsカフェ」も新たな会場に

信頼関係築き、ようやく定着

「ハート・ほっと・ルーム」は、2019年６月の開始以来、２０２２年１２月の開催で３６回目を数えるに至った。この間グループカウンセリング方式で、悩みや困り事等をお互いの信頼関係の下にオープンにすることで、参加者の体験に基づいたアドバイスや気持の整理に繋がる場として、定着して来た。４月以降は、障害者福祉サービス事業所「たかもり」の会場をお借りし継続していく予定である。（**浪川　昇三**）

潜在的「すまいの悩み」多い

「すまい相談室」は、次の会場をその都度探し決めていくという状況となりそうで、相談者の足が遠のくのではないかと心配している。相談者の高齢化とともに自身の将来のことに不安が募り、なかなか解決への決心がつかないといった状況が多くなっているようだ。潜在的にかなりの方が住まいのことで悩んでいることがうかがえる。そういった状況なので、なるべく立ち寄り易いところに場所を構えることが大切だと思っている。　（**長谷川　光男**）

高森山を生物多様性の楽園に

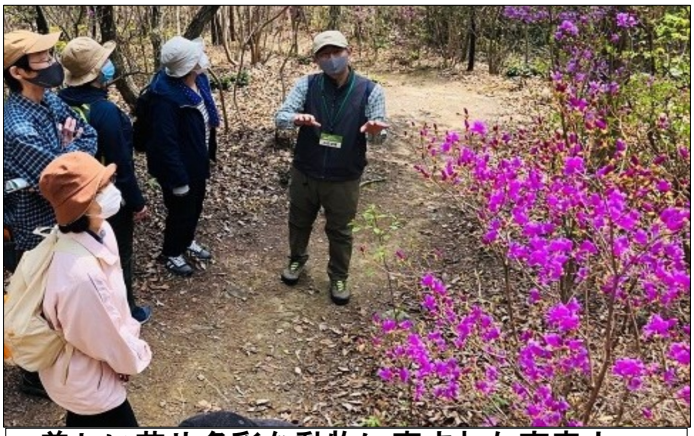
OECM登録を申請

「つくる会」は「どんぐりｓ」と一体化

「高蔵寺どんぐりｓ」の部会「魅力ある高森山公園をつくる会」は、創設5年目に入り、ますます環境整備を中心に活動が充実している。雑木を切り山を明るくし、住民が自然の魅力を堪能できる里山に姿を変えつつある。実地調査の結果、山には410種以上の多様性に富んだ動植物が生息していることが判明、保全する価値のある自然であることが確認された。

一方、COP15では、人と自然の共生を目指し、地球に棲む動植物800万種の生態系を維持するに、2030年迄に陸と海の各30%を保全地域にするとの目標を設定した。連動して環境省は、ハードルを越えるには、民間や自治体の協力が不可欠とし、新たにOECM（国の保護地域以外で生物多様性に資する地域）を増やさなければならないとしている。OECM選定には、里山づくり等により多くの生き物が住める基準があり、クリアーできれば自然共生サイトとして来年度から登録が開始される。高森山公園は、OECMにふさわしい地域とされ、公益財団法人日本自然保護協会の候補地にリストアップされた。今後は、行政とも連携し、環境省の正式登録サイトに認定されるようにしていきたい。

なお、「つくる会」は、「どんぐりｓ」の部会ながら、別途会則を持ち独立採算制となっている。しかし、現状は作業が重複し、「どんぐりｓ」との事務や会計処理など仕分け作業に手間がかかっている。来期に向けて、名実ともに「どんぐりｓ」と「つくる会」の一体化を図り運営を効率化したい。但し、つくる会は、部会として残し、高森山公園の未来プランの実現に向けて、創設の目的である生物多様性に資する里山づくりを進めていく。　　（**堀内　泰**）



美しい花や多彩な動物に恵まれた高森山

私の朝・昼・晩

「生涯青春」

あぁあぁ、毎年毎年月日の過ぎ去るスピードのなんと速いことか。m(_ _)m

年を経ると年々、時の過ぎ行く早さに驚かされます。俗説では、この早く感じるのは、今まで生きてきた時間という分母が大きくなるからだそうです。喩えば６０歳の人の時間が過ぎ行く感覚は、１０歳の少年の６倍の速さで時が流れると感じるようです。ナルホド・・・思い起こせば納得・・・。新説では、人間の時間感覚をつかさどるのは、代謝や細胞分裂の速度がもとになる体内時計であるとして、この生命の回転速度は加齢とともに遅くなります。その結果、実際の体内時計の針の進み方が遅くなり、年を経ると時間が「あっという間」に流れると感じるのだそうです。

先日のＮＨＫＴＶの「チコちゃんに叱られる」では、大人になるとトキメキがなくなるから、１９歳を境に年を経るスピードが早くなると放映しておりました。また、別の意味で或る著名人曰く。「前だけ見ていればいい。人間の目は前についている。後ろにはついていない。だから前しか見えない。横は１８０度、後ろは見えない。だから人は過去の事は思わなくても良い。前、先を見つめて生きていかねばいけない。後ろは、人が見てくれる。」なるほど　(^o^)　な-るほど　(*^_^*)。

小生の座右の銘の一つは「生涯青春」です。時の流れに負けることなく前向きにゆったりと時が流れていくように人生を謳歌して生きていきたいものです。(^o^)　(^o^)

（諸戸　行雄）

住まい困りごと無料相談

電話または直接面接会場にお越しください
☎080-5297-8956（長谷川）
面接相談会日;1月21日（土）2月12日（日）
（いずれも13：30～16：00）
会 場；東部ほっとステーション
（サンマルシェ南館1階）

ハート・ほっと・ルーム

日 時；1月22日（日）、2月26日（日）
（いずれも13：30～17：00）
会　場；東部ほっとステーション
参加費；無料
連絡先；☎090-6330-4393(浪川)